



順次展開を進め、さらに来年度は銀座にオープン予定だ。

同社が今後注力する延床1000〜3000㎡程度の中小規模オフィスビルを舞台に、ハイスペック大型ビルと同等のクオリティを留意。1拠点の面積は200坪〜300坪、基本的に受付を置かず、会議室やラウンジ

（東京都千代田区）はインベーターを主なターゲットに据えたスモールオフィス「WIND BASE」シリーズの1拠点400坪〜500坪のレンタルオフィスを立ち上げた。新横浜、港区白金台の2拠点をオープン。渋谷・麻布台・横浜西口でも

大型ビルのクオリティを小規模ビルで実現



日総ビルディング 取締役社長 大西紀男氏

これから世の中に新しい風を起こして、このように方に入ってくるに合ったインベーターで頂きたいと立ち上げました。これからは業績ではなく、人柄が少なくて、何

「元々、当社がスモールオフィスをスタートしたのは、2008年に遡ります。『WIND BASE』の原点となった高級スモールオフィスです。何かビルに特徴を出したいとエリアで調査をしたところ、10坪、20坪という小サイズのオフィスニーズがあることがわかりました。その大きさのオフィスは小規模ビルに多く、なかなか会議室や応接室を持ってません。良いビルがあったら移動したいという声に応え、リーシングの方向を切り替えました。坪当たりの単価は△2面につづく」

△1面からつづく▽
割高になるものの、グロスで考えるとコストパフォーマンスが良いため大変好評で、5坪オフィス、2坪オフィスと種類を増やしました。

2021年夏に新横浜の「日総第12ビル」内のスモールオフィス区画を「WIND BASE SHINYOKOHAMA」にリネーム、その後本年3月に港区白金のビル1棟を完全リニューアルし、「WIND BASE SHIROKANE」が本格スタート。本年7月には「横浜」駅西口エリアに立地する「日総第5ビル」内の18区画「約151坪もあり料金を低く抑えた」WIND BASE「YOKOHAMA」であるが実はクオインシグチャーリテイの高いインテリアがオープンする予定だ。



日総ビルディング スペース企画担当 永井由紀子氏

リラックスした空間を提供

オフィスはただの空間ではありません。居心地の良さも重要です。インテリアのグレードにはこだわりました。たとえばラウンジのチェアは大型サイズをご用意しました。

「回り」ですが自転車であれば気軽にすぐに行くことができます。リサーチ時点で自転車に乗られる方が多かったです。今後は「元々、当社がスモールオフィスをスタートしたのは、2008年に遡ります。『WIND BASE』の原点となった高級スモールオフィスです。何かビルに特徴を出したいとエリアで調査をしたところ、10坪、20坪という小サイズのオフィスニーズがあることがわかりました。その大きさのオフィスは小規模ビルに多く、なかなか会議室や応接室を持ってません。良いビルがあったら移動したいという声に応え、リーシングの方向を切り替えました。坪当たりの単価は△2面につづく」



「WIND BASE」3年以内に10拠点ほどへ

30代から40代のインベーターをメインターゲットにしており、その住まい近くに自分だけのオフィスを持ちたいという方もおられます。白金にはIT企業や映像制作や設計事務所などのクリエイティブな業種も多く、昼夜の時間にとらわれずに働く方にとって、電車の終電・始発に関係のない交通手段があってもよいのではと、シェアサイクルポートもご用意しました。白金からだと、目黒、麻布、広尾、恵比寿等の近隣エリアは、『歩く』と遠くが電車を使うと遠